

# 山口県庁人事データ一覧から作成

2021年10月の衆院選で自民党的な林芳正外相(山口3区)の後援会に入るよう小松一彦・違反(公務員の地位利用)の罪で罰金30万円の略式命令を受けた事件をめぐり、県庁の人事データをもとに対象者の名簿を作らせていたことが日本共産党的な藤本一規議長の調べで分かりました。

## 共産党・藤本県議調べ

藤本県議が13日に山口 ていました。

地検で閲覧した同事件の 名簿を作るため、この刑事確定記録から判明し 職員は勤務時間中に人事たもの。

藤本県議によると、名簿を作った職員は21年4月末、上司から「リストを作ってくれ」と指示されると興奮と供述しています。その際に上司は、住所や出身などで山口3区内に縁がある職員の名簿を「所属ごとに分けて作成してくれないか」と依頼したといいます。

この職員は当時、県庁に勤務する全職員の氏名、本籍、住所、生年月、小松前副知事の供述内容などによると、同時期に人事データを取り扱った人事データを取り扱つに県内の自民党関係者が



林芳正外相

厳重注意8人などまつてあります。政治家の後援会への勧誘は、県庁内で常態化していたとみられます。

### 説明を

「今回も頼むね。林先生のやつなんだけど」と協力を要請。林氏の略歴や政治信条などが書かれた後援会のリーフレットと入会申込書を県庁職員に配布し、入会申込書を回収するよう求められたと認めています。

山口県が設置した調査チームの報告書によるところ、21年の衆院選で上司が「選挙に関して何うか想像していた」などから選挙リーフの配布や後援会入会の協力依頼を受けた職員は、調査に応じた部課長級305人のうち105人にのぼります。依頼の時期は、同年4月(97人)と5月(40人)に集中しています。

村岡嗣政知事は小松前副知事に協力を依頼した自民党関係者を明らかにせず、勧誘に関与した職員の処分は、訓告1人、

この職員は當時、県庁に勤務する全職員の氏名、本籍、住所、生年月、小松前副知事の供述内容などによると、同時期に人事データを取り扱つに県内の自民党関係者が

神戸学院大学の上脇博之教授(政治資金オブズマン共同代表)は「衆院選で林氏を当選させるため、山口3区に縁のある職員を調べて幅広く勧誘していく実態が明らかになつた。県は調査の範囲を広げ、事件の真相を解説する必要がある。林氏も積極的に事実関係を説明すべきだ」と述べています。